

専修寺

真岡市高田1482

専修寺は1226年（鎌倉時代）、浄土真宗をひらいた親鸞が建てたお寺です。関東では唯一、親鸞が建てたお寺です。専修寺を中心とした門弟（弟子のこと）は「高田門徒」とよばれ、浄土真宗最大の教団でしたが、戦国時代になり、寺が焼失したこともあって衰退し、教団の中心は伊勢国一身田（三重県津市）へ移りました。江戸時代になってようやく寺が復興し、今につながっていきます。

専修寺の境内には、いくつもの建物や仏像などがあり、多くが文化財に指定されています。



親鸞坐像

親鸞聖人76歳の時の等身大の姿と伝えられています。親鸞は平安時代から鎌倉時代にかけて活躍した僧です。浄土真宗をひらいた人として有名です。

真仏坐像

真仏は、専修寺第2世として、親鸞が京都に戻った後に関東の教団をリードしました。当時の有力な武士の出身といわれています。



（撮影 上野訓宏）



（撮影 上野訓宏）

顕智坐像

専修寺第3世の顕智は、若くして真仏上人の後を継ぎ、専修寺の第3世になります。親鸞聖人が亡くなったときには、京都に行き、葬送をとり行いました。また、85歳で姿を消した顕智上人を偲び、現在も8月1日、2日に「高田まち」が行われています。



いっこうさんぜんぶつ まえだち
一光三尊仏（お前立）

ほんぞん いっこうさんぜん あみだによらいぞう ひぶつ
本尊である一光三尊阿弥陀如来像は秘仏（17年に1度ご
かいちょう によらいどう あんち
開帳される）であるため、同じ型の三尊仏が如来堂に安置し
てあります。秘仏である本尊は、親鸞がお告げを聞き、長野
県の善光寺より持ち帰ってきたといわれています。

（撮影 上野訓宏）

しょうとくだいし 聖徳太子像

聖徳太子2歳の時に、太陽に向かって「南無仏」と唱えたとい
う伝承の姿を現したといわれています。鎌倉時代につくられ
たものです。



（撮影 上野訓宏）



ねはんぞう
涅槃像

しゃかさま
お釈迦様がお亡くなりになったときの姿を現してい
ます。江戸時代（1702年）につくられました。

（撮影 上野訓宏）

みえいどう 御影堂

親鸞聖人、真仏上人、顕智上人の像を安置し
ている建物です。江戸時代（1743年）
さいけん
に再建されました。



（撮影 上野訓宏）



(撮影 上野訓宏)

にょらいどう
如来堂

ほんぞん 一っこうさんぞんぶつ あんち
本尊である一光三尊仏が安置されています。

17年ごとにご開帳（はいかん
かいちょう 仏像を拝観すること）

されるため、通常は同じ型のお前立ち（まへだち）が置か
れています。

そうもん
総門

柱は立てられた時（鎌倉時代）のものとされて
います。8月1日、2日の「高田まち」の
時だけ開かれます。
ひら



(撮影 上野訓宏)



(撮影 上野訓宏)

ろうもん
楼門

にょらいどう しょうもん かいだ
如来堂の正面に建つ2階建ての門です。江
戸時代に建てられました。